

〔科目名〕 学習導入演習	〔単位数〕 2 単位	〔科目区分〕 アカデミック・コモン・ベーシックス
〔担当者〕 大森 史博 Ohmori Fumihito	〔オフィス・アワー〕 時間: 授業の初回に提示する 場所: 613 研究室	〔授業の方法〕 講義
〔科目の概要〕 <p> 学びにおける「問い」という技能の意味を吟味することにより、大学での学習を始めるにあたり必要不可欠なアカデミック・スキルの理解と習得を目指す。自分で「問い」を見つけ出し、探求をすすめることは楽しい。自分の経験と関心に応じて「問い」を定め、情報や資料を吟味し、考察を深め、議論を交わし、「答え」を求める。そんなふうにより、大学生活を楽しむための、学びの技(スキル)を身につけることが本演習のねらいである。 </p> <p> 聞くこと、話すこと、読むこと、書くことは、おそらく相互に補い合い、増幅し合うことで、われわれが事象を理解したり、考えたりすることに役立っている。ノートテイキングやメモを活用すること、質問すること、資料を読んで要約すること、音読すること、自分の気づきを文字にすること、といった学びの技を実践的に習得する。 </p>		
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつか〕 <p> この授業では、具体的に学びのスタイルを捉えなおし、メモやノートの方法、図書館の利用、ネットワークの活用、文献や資料の収集と整理の仕方、探求的思考と議論の実践、レポート作成の作法、引用や要約の仕方、等々を習得することを目指す。ことあらためて、勉強の仕方を問い返すことによって、これから始まる大学の授業や自分の学習は、ますます興味深いものとなるだろう。 </p> <p> どのような仕方で、どのように勉強するのかという方法やスキルは、その人その人が徐々に身につけ、改良を加えてゆくものである。とはいえ、学生生活の中心が「学ぶこと」であるかぎり、どのような学問領域、研究対象に向き合おうとするにせよ、基礎的な学習のスキルを身につけること、自分の学びのスタイルを再構築することは、この春あらたにスタートを切るにあたり必要不可欠なトレーニングである。 </p> <p> 「学ぶ」とはどのようなことなのか。「なぜ」と考えるのはどのようなことなのか。そうした高次の問いにも踏み込んで、ともに考えることを楽しみながら授業をすすめたい。 </p>		
〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕 <p> 中間目標 </p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 図書館、授業、文房具、電子機器、インターネット、等々の学習のためのツールを使いこなすこと (2) この授業、および大学の様々な授業のスタイルに慣れ親しむこと (3) 問うことの意味を理解し、探求的に考える習慣を身につけること <p> 最終目標 </p> <ol style="list-style-type: none"> (4) レポートや小論文を作成するための技法を身につけること 		
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 <p> レポートの書き方が分かった、引用の仕方を学んだ、文章の読み方や問いの設定の仕方などを詳しく知れた、といった声が寄せられた。また、レポートの構成の力を伸ばせた、参考文献の記入の仕方や要約のコツを学んだ、といった声も寄せられた。授業に熱中するあまり終了時間を過ぎないように、とにかく時間厳守を徹底したい。 </p> <p> 今学期 15 回の授業スケジュールについては、シラバスの計画をじっさいに進めながら、受講者の理解と関心、具体的な作業の進行状況をみて無理がないように調整する。参加者の日々の学びと気づきが糧となるように、毎回の授業も工夫しながらすすめることにしたい。 </p>		
〔教科書〕 使用しない。適宜プリントを配布する。		

〔指定図書〕 なし	
〔参考書〕 『大人のための国語ゼミ』野矢茂樹、山川出版社、2017年 『はじめての論理学』篠澤和久ほか、有斐閣、2020年 『学術書を読む』鈴木哲也、京都大学学術出版会、2020年 『対話の技法』納富信留、笠間書院、2020年 その他、授業内に紹介する。	
〔前提科目〕 なし	
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 授業のなかでの活発な活動や発言(50%)、最終レポート(50%)	
〔評価の基準及びスケール〕 A:80点以上 B:80点未満70点以上 C:70点未満60点以上 D:60点未満50点以上 F:50点未満	
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 大学に入学するまでの勉強と入学してからの勉強は、すこし違います。そこで、自分の学習のスタイルについて、ちょっと立ちどまって考えてみましょう。学びの方法やスタイルを再構築することにも、発見や気づきがあるかもしれません。あたらしい知識をたくさん見聞かし、習い覚えることは、もちろん面白いし達成感があります。それだけではありません。これからは、まだ「答え」が見つかっていないことを考え、調べ、探究的に学んでいくことになります。あらたな問いを見出すことと、その問いに答えることは、ある意味では表裏一体です。そのように、自分で考えることを楽しんで下さい。	
〔実務経歴〕 該当なし	
授業スケジュール	
第1回	テーマ(何を学ぶか):オリエンテーション 内 容:この授業の趣旨と内容、具体的な作業の予定、評価の方法、質問する、メモ、ノートテイキング 教科書・指定図書
第2回	テーマ(何を学ぶか):大学と図書館 内 容:ネット検索と文献資料の価値、図書館を活用するための基礎、自己紹介カードをつくる 教科書・指定図書
第3回	テーマ(何を学ぶか):レポート作成の方法 内 容:作文すること、問いの提起、引用と参照、書式 教科書・指定図書
第4回	テーマ(何を学ぶか):探求のテーマと参考文献 内 容:主題を設定する方法、本を探すこと、調べること、文献資料のリスト 教科書・指定図書

第5回	<p>テーマ(何を学ぶか):引用と要約(1)</p> <p>内 容:レポート作成のための引用と要約の練習</p> <p>教科書・指定図書</p>
第6回	<p>テーマ(何を学ぶか):引用と要約(2)</p> <p>内 容:レポート作成のための引用と要約の練習</p> <p>教科書・指定図書</p>
第7回	<p>テーマ(何を学ぶか):主題設定と構想(1)</p> <p>内 容:趣旨説明、問いをつくる、資料の探索、構想ノート</p> <p>教科書・指定図書</p>
第8回	<p>テーマ(何を学ぶか):主題設定と構想(2)</p> <p>内 容:問いをつくる、資料の探索、構想ノート</p> <p>教科書・指定図書</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか):構想発表(1)</p> <p>内 容:主題、構想、参考文献、質疑応答</p> <p>教科書・指定図書</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか):構想発表(2)</p> <p>内 容:主題、構想、参考文献、質疑応答</p> <p>教科書・指定図書</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか):構想発表(3)</p> <p>内 容:主題、構想、参考文献、質疑応答</p> <p>教科書・指定図書</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか):レポート課題への対策</p> <p>内 容:事実と経験、問いと答え、先行研究と資料探索、再考すること</p> <p>教科書・指定図書</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか):対話・質疑応答(1)</p> <p>内 容:趣旨説明、問いの形式、質疑応答、困難を克服する</p> <p>教科書・指定図書</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか):対話・質疑応答(2)</p> <p>内 容:問いの形式、質疑応答、困難を克服する</p> <p>教科書・指定図書</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか):総括</p> <p>内 容:授業の趣旨と要点をふり返る</p> <p>教科書・指定図書</p>
試験	